

—初級から楽しく描こう—
第13期 楽しい水彩・パステル

【10月の活動報告】

10月6日（月）

○AM 講義『水彩 風景（2）空気遠近法、絵の奥行』

・空気遠近法

「色」の空気遠近法

近景：はっきり 中景：やや弱め 遠景：ぼんやり

「線」の空気遠近法

近景：はっきり太い線 遠景：細い弱い線

・奥行と距離

奥行に立体感を持たせるのが風景画の主眼

・風景画は空気を描く

○AM作品紹介スライド

・水彩画作品（日本）

・パステル画作品B

（午前の講義はオープン講座で、3名の参加があった。）

○PM 実技指導 水彩画・パステル 風景画

それぞれ写真等をもとに風景画を描き、土方先生に直し、アドバイスをいただいた。

素敵な風景画が先生の筆でより素敵になっていきました。



10月13日（月）

○校外学習 服部緑地都市緑化植物園で受講生による写生会

参加者は少なめでしたが、それぞれが思い思いの場所で写生を行い、最後に作品鑑賞を行いました。

写真と違って写生は天候、光の位置、気温、人の往来が時間とともに変化するので、難しかった。あと蚊や蟻などの虫が多く、いっぱい刺されて集中できませんでした。





鑑賞会で一人ずつ発表



10月20日(月)

○AM 講義『水彩 風景(3) 空、雲、山、水面』

- ・風景を見て、どんな絵になるだろうかと頭に描く。
- ・「空」手前を濃く、遠くを明るくし遠近感をだす。
- ・「雲」最初に見た印象を大切に、
絵の中でバランスよく配置する。
- ・「山」細部のこだわらず、おおまかに描くこと。
- ・「水面」水面と表すことと映り込みを表すこと。
水面は横タッチ、映った影は主に縦タッチ。



(午前の講義はオープン講座で、2名の参加があった。)

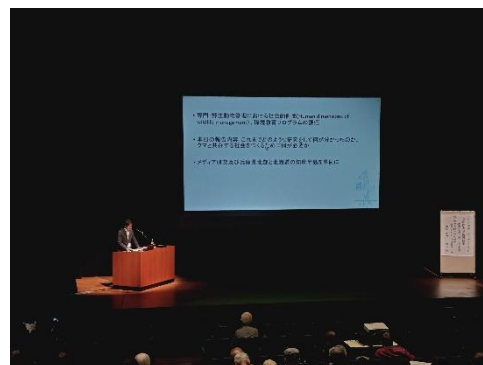
○PM 実技指導 水彩画・パステル 風景画

それぞれ写真等をもとに風景画を描き、土方先生に直し、アドバイスをいただいた。

10月29日(水)

○大学提携授業

「クマと人間との軋轢の解消のためにできること
～ヒューマンディメンション研究から分かったこと～」
立命館大学政策科学部／政策科学研究科
桜井 良 准教授 による講演



- ・クマが増えたとよく耳にするが、実際の数(推定値)を見て増加のスピードの速さに驚いた。
- ・収穫しない柿などの果実の木を伐採してクマが食べに来ないようにすることも必要と聞いて、成る程
と思う反面、廃屋や放棄地が全国で多くある中、現状実行することは難しいとも感じた。